

ランネート® 45DF

■種類名:メソミル水和剤
 ■有効成分:メソミル-----45.0%
 ■PRTR法指定物質:メソミル [第1種] -----45.0%

■登録番号:第20863号(宇都宮化成工業株式会社登録)
 ■毒性:医薬用外劇物
 ■登録初年:2002.07.30
 ■性状:青色水和性微粒及び細粒
 ■有効年限:4年
 ■包装:500g×24本

ランネート®は米国デュポン社の登録商標です。

【特長】

- 広範囲の害虫に効果のあるカーバメート系殺虫剤。
- 人畜に対する安全性をさらに高めるため、粉立ちの少ない顆粒剤に改良され、さらに使いやすくなった。
- 吸汁性害虫、食葉性害虫に高い効果がある。
- 野菜、畑作物、いちご、茶など適用作物が広い。

【適用内容】(2017年10月末日現在)

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メソミルを含む農薬の総使用回数
かぼちゃ	ワタアブラムシ	1000	100~300 ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
いちご	イチゴメセンチュウ イチゴセンチュウ			育苗期 定植後生育初期			
	ピーマン (露地栽培)	イチゴネグサレセンチュウ コガネムシ類幼虫	1~2ℓ/m ² 2~3ℓ/m ²	移植活着後 (育苗期)	4回以内	灌注	4回以内
タバコガ ハスモンヨトウ		収穫開始 14日前まで					
キャベツ	アオムシ、コナガ ヨトウムシ、アブラムシ類 ハスモンヨトウ タマナギンウワバ	1000~ 2000	100~300 ℓ/10a	収穫14日前 まで	3回以内	散布	3回以内
				アオムシ、コナガ ヨトウムシ アブラムシ類			
はくさい	アオムシ、コナガ ヨトウムシ アブラムシ類	1000	100~300 ℓ/10a	収穫14日前 まで	2回以内	散布	2回以内 (は種時の土壌 混和は1回以内)
レタス	ヨトウムシ アブラムシ類 オオタバコガ ナメクジ類			収穫21日前 まで			2回以内 (植付時の土壌 混和は1回以内)
チンゲンサイ こまつな	アブラムシ類	1000~ 2000	100~300 ℓ/10a	収穫14日前 まで	3回以内	散布	2回以内
サラダ菜	ヨトウムシ アブラムシ類 オオタバコガ			収穫21日前 まで			3回以内
カリフラワー	ヨトウムシ アブラムシ類	1000	100~300 ℓ/10a	収穫21日前 まで	2回以内	散布	2回以内
ブロッコリー	ヨトウムシ アブラムシ類	1000~ 2000		収穫7日前 まで			
かぶ ごぼう	アブラムシ類、アオムシ アブラムシ類	1000	1000~ 2000	収穫14日前 まで	4回以内	散布	4回以内
ほうれんそう	ヨトウムシ ミナミキイロアザミウマ アブラムシ類	1000		収穫14日前 まで			
ねぎ	シロイチモジヨトウ	1000~ 2000	1000~ 2000	収穫7日前 まで	2回以内	散布	2回以内 (は種時の土壌混 和は1回以内)
たまねぎ	ネギアザミウマ			収穫7日前 まで			
しょうが	ハスモンヨトウ	1000~ 2000	1000~ 2000	収穫21日前 まで	2回以内	散布	2回以内 (は種時の土壌混 和は1回以内)
だいこん	アオムシ、コナガ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ			収穫21日前 まで			

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ミミル を含む農薬の 総使用回数
ばれいしょ	ジャガイモガ ナストビハムシ ニジュウヤホシテントウ アブラムシ類	1000	100～300 リットル/10a	収穫7日前 まで	5回以内	散布	5回以内
かんしょ	ハスモンヨトウ ナカジロシタバ	1000～ 2000					
だいず	ハスモンヨトウ シロイチモジマダラメイガ マメシンクイガ			収穫7日前 まで	3回以内		3回以内
えだまめ	カメムシ類、ツメクサガ			ヨトウムシ、トビハムシ	5回以内		5回以内
てんさい	ヨトウムシ						
にんじん	ハスモンヨトウ アブラムシ類	1000		収穫30日前 まで	1回		1回
パセリ	アブラムシ類	2000	200～400 リットル/10a	摘採21日前 まで	2回以内	2回以内	
茶	ハスモンヨトウ チャトゲコナジラミ	1000					1000～ 1500
	ココクモンハマキ チャハマキ チャノホソガ ミドリヒメヨコバイ	1000～ 2000		25～180 リットル /10a	収穫10日前 まで		
たばこ	タバコガ、ヨトウムシ ハスモンヨトウ	2000		25～180 リットル /10a	収穫10日前 まで		
食用ゆり	クロバネキノコバエ類	500	—	植付前	1回	30分間 種球 浸漬	1回
セルリー	ヨトウムシ アブラムシ類 ハスモンヨトウ	1000	100～300 リットル/10a	収穫30日前 まで	2回以内	散布	2回以内
アスパラガス	ネギアザミウマ			1～3 リットル/m ²	収穫前日まで		
	ナメクジ類		1 リットル/m ²		収穫21日前 まで	2回以内	灌注
にら	ネギアザミウマ		1 リットル/m ²	1 リットル/m ²	収穫21日前 まで	2回以内	灌注
らっきょう	ネダニ類						

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- 石灰硫黄合剤、ボルドー液等アルカリ性薬剤との混用はさけること。
- はくさいに使用する場合は、定植後20日以内では薬害のおそれがあるので使用しないこと。また、定植後20日頃に使用する場合は、低濃度(2,000倍)で使用すること。
- ジャガイモガに対しては、潜葉幼虫を対象に使用すること。
- イチゴネグサレセンチュウ防除の場合、苗の移植活着後(育苗期)に7～10日間隔で2～3回ジョロ等で灌注すること。
- ミナミキイロアザミウマの防除に使用する場合、生息密度が高まると効果が劣るので、初発生をみたら直ちに散布すること。なお、ミナミキイロアザミウマは繁殖が早いので、散布はかけ残しのないようていねいに行うこと。
- ねぎのシロイチモジヨトウの防除に使用する場合は、食入前の若齢幼虫期に散布すること。
- 散布液の漂流飛散による危害を防止するため、特に水田転換作の大豆などに散布する場合は、フォームスプレー(泡散布)することが望ましい。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないように注意すること。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ◆ ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
 - ◆ 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。

- 本剤の使用に当っては、危害防止のため使用条件などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 医薬用外劇物。取扱いには十分注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- ❖ 作業中に、粉末や噴霧を吸い込んだ場合は、薬剤にさらされない場所に移り、安静にすること。薬液を多量に浴びたときには、衣服を脱ぎ、皮膚・眼をよく洗うこと。また、身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当てを受けること。
- ❖ 本剤による中毒に対しては、硫酸アトロピン製剤の投与が有効であると報告されている。呼吸が困難な場合は気道を確保すること。口移し人工呼吸は行わないこと。
- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けること。
- ❖ 薬液調製時及び使用の際は、防護マスク、保護眼鏡、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼するとともにうがいをすること。
- ❖ 本剤の散布に当っては危害防止のため、胸の高さ以下の作物に対して下に向けて散布することとし、作物が胸の高さを超える場合は絶対に散布しないこと。特にたばこでは、草丈が腰の高さの時までに散布すること。
- ❖ 施設内において灌注処理を行う場合は、出入り口、天窓、側窓等を開け、適宜、通気を確保して作業を行うこと。
- ❖ 本剤の灌注処理に当ってはハス口状ノズルを使用すること。また、危害防止のためハス口状ノズルを腰より下にして地面に向けて灌注すること。
- ❖ 被覆中の茶園や施設内など、噴霧のこもりやすい場所での散布は行わないこと。
- ❖ 高温多湿時の長時間作業及び疲労時の使用はさけること。
- ❖ 魚毒性等：河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意する(甲殻類)。散布器具・容器の洗浄水は河川等に流さない。また、空容器などは水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、鍵のかかるなるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。